

2006年7月4日

東京都文京区  
区長 煙山 力 殿

東京都文京区都市計画審議会  
会長 戸沼 幸市 殿

社団法人 日本建築学会  
都市計画委員会委員長 西村 幸夫  
建築歴史・意匠委員会委員長 吉田 鋼市

### 関東大震災復興事業の記念碑としての元町公園および 旧元町小学校の保存に関する要望書

平素は、本会の活動に対しご支援を賜り、心より感謝いたしております。

さて、現在文京区において区立元町公園の都市計画変更により、旧元町小学校の解体と跡地の公園化、および現公園地への総合体育館の建設が検討されていると聞き及んでおります。

ご承知のように、旧元町小学校および元町公園は、関東大震災に伴う帝都復興事業により東京市（当時）により設置された貴重な文化財です。元町小学校は昭和2年（1927）12月に竣工、元町公園は昭和5年（1930）1月に開園しています。鉄筋コンクリート造小学校と小公園がセットになった姿をもっともよく残している貴重な歴史遺産です。このときの帝都の復興事業は高い理想を体現したもので、地域コミュニティの拠点として被災地に52カ所の小公園が小学校に組み合わされて設置され、近隣の生活と非常時の防災拠点として整備されました。これは近代都市計画史上、世界的にみても特筆すべき事業であります。その後戦災を経た急速な東京の発展の中で、多くの小学校は建て替えられ、公園も改変されました。元町公園は52小公園のうち当時の姿を現在に伝えるただ一つの公園として生き残り、近代都市の社会資本としてきわめて貴重な歴史資産となっており、これは区画整理40周年記念事業として発行された「緑・こころのやすらぎーぶんきょうの公園と緑地」に誇らしく記述されているとおりです。また元町小学校も復興小学校の遺構として、いまや希少な例のひとつだといえます。また、この元町公園は外堀の北に位置する斜面緑地の重要な拠点となっており、首都東京の景観・緑地資産としてもきわめて重要な位置を占めています。さらに、直下型地震対策が喫緊の課題である今日、関東大震災の教訓から近隣住民の命を救うべく、外堀通りに隣接して防災機能を兼ね備えて計画された元町公園は、防災まちづくりの生きた教材であるばかりか、一時避難場所として重要性は失われていません。

これに加えて、元町公園のデザインは、復興52小公園の中でも極めて質の高

いものであり、敷地の高低差を生かしたカスケードや階段、テラス、パーゴラなど、大正・昭和初期のモダニズム思潮が展開された極めて特徴ある造形美と景観を現在に伝える、我が国の近代都市の文化遺産としても国内で他に類のな

い大変貴重な公共の庭園です。

このように旧元町小学校および元町公園は、文京区のみならず東京および我が国の近代都市建設、中でも悲惨な関東大震災から見事に復興した東京の歴史をとどめる歴史資産として、都民の貴重な文化財であります。小学校および本公園が現在まで存続し得たのは、文京区と近隣住民の方々が本公園の歴史的・文化的意義を高く評価し、地域の中で本公園を大切に活用されてこられたからであります。文京区は自ら昭和50年代にこのような歴史的価値を評価し、歴史的検証に基づく復元整備を実行されたのであり、歴史的環境を活かしたまちづくりへの先見的、画期的な英断であったと感服致します。

また、昨今の東京都および文京区の基本構想や緑の基本計画においても、歴史的環境への配慮やその活用を重要施策として掲げておられることは、持続的なまちづくりの方向性として本会も強く賛同するところです。

しかしながら、現在計画中の都市計画変更が実現されるならば、小学校および公園は取り壊しを免れず、関東大震災からの復興を記念すべき資産が失われることは、本会としても大変憂慮しております。

つきましては、元町公園の歴史的・文化的価値についてあらためてご理解いただき、貴重な歴史文化資産が未来に継承される形で保存・活用されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。本件に関しまして、文京区への対応をお伺いしたいと思っておりますので、是非とも本要望書に対する貴区のご回答を本会宛にお寄せいただきたく、お願い申し上げます。

なお、社団法人日本建築学会に所属する都市計画および歴史意匠に関する専門家として、私たちは元町公園および旧元町小学校の保存に関してできる限りの技術的支援をおこなうことに吝かでない旨、申し添えます。



元町公園